

フォレスト熊本広報誌

やすらぎの森

contents

- 2 フォレスト熊本開設20周年を振り返って
- 3 フォレスト熊本の沿革
思い出の写真
- 4-5 フォレスト熊本開設20周年 記念対談
- 6 新入職員紹介
- 7 オレンジカフェ

Vol. 68

夏号
2018.8

フォレスト熊本
開設20周年を振り返って

Forest
Kumamoto
20th
Anniversary



PHOTO: 牧 祐太郎 (療養棟2階勤務)

フォレスト熊本開設20周年を振り返って

フォレスト熊本 施設長

上妻 和夫

皆様こんにちは



早いものでこのフォレスト熊本が開設され20年が経ちました。フォレスト熊本は平成10(1998)年1月当時の江南病院院長の絹脇悦生先生より開設されましたが、当初は老人保健施設という名称でした。入所者の定数は80名と現在と同じですが、通所定数は30名からスタートしています。同時に江南病院から訪問看護ステーションが移転して、同(1998)年8月「訪問入浴サービス」、9月「ホームヘルパーステーション」が併設されました。通所定数も平成14(2002)年9月から現在の100名となりました。

在宅総合支援事業部は在宅介護支援センターとしてスタートし、介護保険制度が施行された平成12(2000)年に開設されました。「訪問看護ステーション」、「ホームヘルパーステーション」、「訪問入浴サービス」、平成18(2006)年12月「訪問

リハビリテーション」が併設されて、ケアプランを作成する「居宅介護支援事業所」とともに在宅部門でのサービスが強化されました。ただ残念ながら訪問入浴が利用者の減少で平成28年閉鎖となりました。また平成18(2006)年4月、地域包括支援センター「やすらぎの森」が開設され、地域での高齢者の支援や介護予防プランにあたっていました。

平成12(2000)年4月介護保険制度が施行され、名称が現在の介護老人保健施設となりました。同年11月に濱田建男先生が施設長に就任し、現在の規模に発展寄与されました。平成19(2007)年3月濱田先生

が退職されたあと同年の8月から私、上妻和夫が3代目施設長に就任し、現在に至っています。また地域包括支援センターの制度が見直され、施設外に出ることになりましたが、平成24(2012)年4月より熊本市高齢者支援

センター「ささえりあ帯山」と名称が変更されて、事務所を保田窪へと移転しました。

この間設備、建物関係では平成20(2008)年12月空調設備改修工事竣工、また利用者の増加とともに、職員数も130名を超え、部屋が手狭になったため、平成23(2011)年在宅総合支援事業部の事務所とアクティビティ室を1Fに増床し、7月竣工しました。さらに建物も老朽化したため改装に向けて外壁工事を施行しました。

通所リハビリでは平成21(2009)年ゲーム機による認知症予防モデル「あそびランド」を開始、認知症の周辺症状の改善にある程度の効果をみています。介護保険制度の施行から18年が経ち、高齢化とともに介護認定者も増加、介護保険給付費も上がる一方です。そのため財源問題もあって、今後介護保険制度の見直しが必要になっていきます。その中これから団塊

世代が全て後期高齢者になる2025年に向けて、地域包括ケアシステムの強化、推進が進められています。これは高齢者が住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なくするもので、医療との連携強化、介護サービスの充実強化、予防推進、生活支援サービスの確保や権利擁護、高齢でも住み続けられる住宅の整備等が必要というわけです。そのためには当施設を利用される高齢者が安心して住んでいた

だく在宅施設の建設が早急の課題となっていました。そのため2016年4月にあの熊本地震が起きましたが6月には高齢者向けの住宅「花鏡」が開設しました。

フォレスト熊本は今後も地域の中に根ざして、老健施設理念であるリハビリテーション施設としての役割を重視しながら在宅復帰をめざす中間施設を維持していきたいと思えます。



フォレスト熊本の沿革

年	月	
1998年 (平成10年)	1月	フォレスト熊本開設
		絹脇悦生施設長就任
		入所定員80名
		通所定員30名
	2月	訪問看護ステーション移転
		「開設記念文化講演会」開催 －養老孟司先生－
		「在宅介護支援センター」併設
8月	「訪問入浴サービス」開始	
9月	「ホームヘルパーステーション」開設	
1999年 (平成11年)	4月	通所定員40名
	11月	通所定員50名
	12月	介護保険サービス事業所の認可
2000年 (平成12年)	4月	介護保険制度スタート
		「居宅介護支援事業所」開設
	通所定員60名	
	7月	通所定員80名
	11月	濱田建男施設長就任
絹脇悦生名誉施設長就任		
2001年 (平成13年)	5月	通所定員90名
	7月	「文化講演会」開催 －井形昭弘先生－
2002年 (平成14年)	9月	通所定員100名
2003年 (平成15年)	4月	「パワーリハビリ」導入
2004年 (平成16年)	7月	「文化講演会」開催 －大熊由紀子先生－
	9月	「学習療法」スタート
2005年 (平成17年)	10月	介護保険制度一部改正 (居住費・食費の自己負担)



年	月	
2006年 (平成18年)	4月	改正介護保険法施行(予防給付の導入)
		地域包括支援センター「やすらぎの森」開設
		熊本市地域支援事業(運動器機能向上)開始
2007年 (平成19年)	12月	「訪問リハビリステーション」開設
	4月	絹脇悦生名誉施設長、施設管理者へ
2008年 (平成20年)	8月	上妻和夫施設長就任
	1月	開設10周年
2009年 (平成21年)	2月	老健、訪問看護、訪問介護、訪問入浴および居宅指定更新
	10月	「文化講演会」開催 - 落合恵子氏 -
	12月	空調設備改修工事竣工
2010年 (平成22年)	12月	認知症予防モデル事業「あそびりランド」開始
2010年 (平成22年)	10月	くまもと青明病院・フォレスト熊本合同秋祭り第1回「杏仁祭」開催
2011年 (平成23年)	7月	1階増築工事竣工
2012年 (平成24年)	4月	地域包括支援センター再編による名称変更及び移転
		地域包括支援センター「やすらぎの森」→熊本市高齢者支援センター「ささえりあ帯山」
2016年 (平成28年)	11月	「訪問リハビリステーション」廃止
	6月	「文化講演会」開催 - 米山公啓氏 -
2016年 (平成28年)	6月	サービス付き高齢者向け住宅「花鏡」開設
	9月	「訪問入浴サービス」廃止
	11月	「文化講演会」開催 - 藤田孝典氏 -
2018年 (平成30年)	1月	開設20周年



フォレスト熊本開設20周年 記念対談

療養棟科長

アクティビティ推進室長

高木 啓司

×

池田 憲治

(平成9年4月1日採用)

(平成10年1月4日採用)

フォレスト熊本も20周年を迎える事が出来ました。まず、開設当時の話や印象等をお聞かせ下さい。

(池田) それまで、考えていた施設のイメージとは全く違い、「ホテルじゃないか」と思ったのが第一印象でした。たくさんさんの絵・花・音等に囲まれ、夢と希望に満ち溢れた若い職員が集まった本当にワクワクした事を思い出します。ゼロからスタートなので、毎日夜遅くまでお酒を交えながら夢を語り合ったのが懐かしく思い出されます。高木さんも今じゃ、立派に熊本を代表する認知症ケアの指導者になられていますが、あの頃は体格も今の半分ぐらいで20代の好青年でしたよね？

(高木) はい、おかげ様で幸せになり体重も倍増しました。だいぶん飲んで：そういえば池田さんもふつくらされたでしたね。開設当初は初々しい少年でしたが、お互い歳を重ねましたね。20年フォレストと一緒に歩んできましたからね。

でも、外見は変わっても、『フォレスト愛』はお互い変わらずにありますよね。仕事の時間以外にもフォレストに自然と集まり、時にはお酒を飲みながらフォレストの今後を熱く語り合う日々が懐かしいですね。それに行事は全スタッフで取り組み楽しんでいましたよね。

その当時から目指していたもの、また

目標は何かありましたか？

(高木) 『利用者・家族・地域に選ばれる県内1番の施設』ですね。この目標は施設の理念と一緒にスタッフ一同で常に意識していましたね。目標に向かって、施設内の勉強会や外部研修会に参加し自分たちのサービスを常に見直していました。

(池田) 私は、絹脇施設長・濱田副施設長に、「活気に溢れた楽しい施設をつくりたい。認知症高齢者が今後増えていくので、それを出来るだけ予防できるようにする為に、意欲的に自主的に活動をするようなプログラムを考えてほしい。あなたが専門にしている『音楽療法』も施設の目玉として、充実させてください」「くれぐれも：幼稚な活動はしてほしくない。自分の親や自分が入りたいと思えるような質の高い施設にしたい」と言われました。

(高木) そうですね。そういう時期に山口(前アクティビティディレクター)さんが来られましたよね。あの頃は『アクティビティ・ケア』という言葉を全く知らずにレクリエーション(余暇活動)で利用者の方々に満足して頂けると思っていましたからね。でも山口さんがアクティビティ委員会を作られて一緒に勉強会に参加しながら活動を考えて行く中で様々な体験が出来ましたね、特にあの時代は『集団ケア』が主流でしたがアクティビティを通して『個人に目を

新入職員紹介

Q1. 趣味・特技

Q2. この職業を選んだきっかけと抱負



梶尾未祐 療養棟2階

Q1.【趣味】旅行、車で遠出すること 【特技】バスケットボール(小・中でやっていました!)

Q2.母が祖父の介護をしていたことです。母の姿をみて福祉への関心が強くなり大学への進学を決め、福祉の職業を選びました。

介護の基礎をしっかりと学び、将来的には社会福祉士の資格を活かして働きたいと思っています。よろしくお願いします。



伊藤靖人 療養棟3階

Q1.【趣味】マラソン 【特技】なし

Q2.祖母が脳梗塞を発症し施設に入所しました。そこで面会に訪れるにつれ、スタッフの方が利用者様に対して、笑顔で対応されているところを見て、私もこの仕事に携わりたいと思い介護福祉士を選びました。

利用者様の暮らしの支えになるように日々努力します。



與那覇綾香 リハビリテーション科

Q1.【趣味】美味しいごはんを食べに出掛けること 【特技】なし

Q2.高校のインターンシップで知り、また元々身体を動かすことも好きだった為、理学療法士を選びました。

いつも笑顔で心がけて一人一人に寄り添えるよう頑張ります。



大森秀晟 通所リハビリテーション科

Q1.【趣味】海外ドラマ観賞 【特技】水泳

Q2.私がスポーツトレーナーの専門学校に在学中に、フォレスト熊本に実習に来る機会がありました。その際、運動を通して、利用者の方が心身共に元気になっていく姿を目の当たりにし、やりがいを感じ健康運動実践指導者を選びました。

利用者の方と積極的にコミュニケーションをとり、笑顔を決やさないトレーナーを目指して頑張ります。



川上耕太郎 通所リハビリテーション科

Q1.【趣味】散歩 【特技】なし

Q2.その人と深く関わることで、本人が自分らしいと思える生活を目指す、そのお手伝いが出来ることに魅力を感じ健康運動実践指導者を選びました。

簡単な仕事ではありませんが、その分やりがいがあるので、新人らしく何事にも全力で取り組みたいです。



江崎香菜 包括支援センター

Q1.【趣味・特技】水泳

Q2.病院で看護師として勤務する中で、在宅に帰られた患者様がどのように生活されているのか、とても不透明でわかりませんでした。薬や医療機器などの正しい扱いが出来ず、倒れて入院してくる方も多くいました。入退院を繰り返す患者様の中には「自分の家に帰りたい」と言われる方も多く、長く住み慣れた地域で暮らしていけるための支援を学びたいと思い、この職業を選びました。予防の視点を持って地域での健康づくりと地域看護を学び、貢献できるように努力したいと思います。

ご利用者の作品

選・総評 松岡妙子先生

講評

きびしい暑さが続いております。暑さに負けないように確り食べて寝て、水分補給しながら皆さん達とお喋りを楽しんでください。さて、皆さんが如何に熱心に、歌や句に取り組まれているかが前出の出来栄えからも解ると思えます。対象となる「物」や「思い」が口に出して読んだとき、心の中に入ってきたて読み手の胸に沁み透る、これこそが短歌や俳句の神髄と言えましょう。これからも指折り数えながら頭を働かせ詠んでみて下さい。及ばずながら私が、そのお手伝いをさせていただきます。

- 昏々と意識失ひ仏桑華
- 梅が香や琴の音浅るる裏通り
- 黄昏の花菜明かりや遠汽笛
- なすな摘む土のにおいの中に母
- 咲き乱れ桜いくひら露天湯に
- 老梅や過去はゆるゆる薄れゆく
- 春がすみ金峰山は淡く見え
- 春の雨音なく降りて胸にしむ
- 寒空の順番待ちに笑顔なく
- いたずらも曾孫となれば愛らしく

俳句

- 夕空をあかねに染めて沈みゆく太陽窓辺に飽きず見ており
- 梅苑を守り来し焔の里言葉の花びら雨と云うはうるわし
- 茶を点てて京菓子頂くひとときや持つべきは友ありがたきかな
- 白百合のほのかに香る朝の庭訣れ花とて言いいし母よ
- 今朝もまた音なく散りゆく桜花雪と見紛うほどに美し
- 過ぎし日を心しずかにふり返り今の幸せかみしめており
- わが想いかなえ給えと朝なきな唯ひたすらに神に祈りぬ
- 庭隅に地震工事の木材の間よりのぞく牡丹三輪

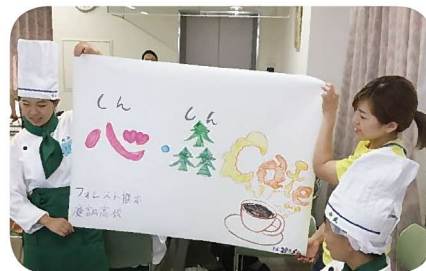
短歌

- 竹下 富恵
- 山内 春子
- 吉川 テイ子
- 梅田 幸子
- 坂本 イチ子
- 田中 テイ
- 正木 恒子
- 隈部 スヤ子
- 蛇足亭主人
- 徳岡 寛一
- 吉川 テイ子
- 濱村 アヤ子
- 堤田 富美子
- 工藤 ヒサ
- 坂本 イチ子
- 村上 洋子
- 村上 千ギリ
- 高石 昭子

オレンジカフェ

まず、オレンジカフェについて少しお話します。オレンジカフェ（認知カフェ）は、認知症の人・その家族同士の交流の場、地域の人や専門家と情報共有しお互いを理解しあう事を目的に設置を推進されています。当施設でも、認知症の人との交流の場、家族同士の交流の場、専門職に相談できる場、リラックスして話ができる場作り、カフェはオープンにし気兼ねなく出入りできる。を目的にオレンジカフェ活動を行っています。





当施設でオレンジカフェに取り組み始めて2年目を迎えます。当施設ではオレンジカフェを「心・森カフェ」と呼んでいます。名称の由来は「森の中で落ち着くように、心が安らぎ、心がつながる」。1回目のカフェ開催の時に、参加者皆さんでネーミングを考え決定しました。それから1年が経過し2年目を迎えました。今年は、地域の方にも足を運んで頂けるようにポスターを掲示し呼びかけを行っています。活動内容は、高校生のボランティアと一緒にお菓子作り、認知症予防の体操、お菓子とコーヒーを飲みながらのカフェタイムなどを行っています。ご家族からの相談には、内容にあった専門職が対応を行っています。心・森カフェの開催は、奇数月の第3土曜、午後1時30分～3時。皆様の参加をお待ちしております。時間内は出入り自由ですので、一度覗いていただくと幸いです。



介護老人保健施設フォレスト熊本の理念

わたしたちは高齢者が充実した人生を継続していただけるように全力を尽くします。

運営方針

総合的ケアサービス施設です。	利用者の家庭復帰を目指します。
 <p>フォレスト熊本は、利用者の心身の状態あるいは介護者や家族の環境に合わせて、医療的サービスと福祉サービスを総合的、一体的に提供します。</p>	 <p>フォレスト熊本は、利用者の意思と人格を尊重すると共に、常に利用者の立場に立って心身の自立を支援し、家庭復帰を目指します。</p>
在宅ケアを支援します。	地域に開かれた施設です。
 <p>フォレスト熊本は、短期入所(ショートステイ)、通所リハビリ(デイケア)をはじめ、訪問看護、訪問介護など多様な機能を生かし、在宅ケア支援の拠点を目指します。</p>	 <p>フォレスト熊本は、地域の高齢者ケアに関する社会資源として、地域の高齢者ケアの質の向上に貢献します。</p>

介護老人保健施設 一般財団法人杏仁会
フォレスト熊本 (江南病院併設)
 ◆入所・短期入所(80床)・通所リハビリ(定員100名)
 〒862-0970 熊本市中央区渡鹿5丁目1番37号
TEL.096-363-0101 FAX.096-363-3363
 【HP】<http://www.kyouinikai.jp/forest/>
 【Mail】forest@kyounikai.jp

居宅介護支援事業所	フォレスト熊本	TEL.096-206-0091(直通)
訪問看護ステーション	フォレスト熊本	TEL.096-375-1411(直通)
ホームヘルパーステーション	フォレスト熊本	TEL.096-375-1411(直通)



- ◆関連病院 くまもと青明病院 熊本内科病院 江南病院
- ◆熊本市地域包括支援センター 熊本市高齢者支援センター ささえりあ帯山
- ◆熊本市障がい者相談支援センター ウイズ
- ◆サービス付き高齢者向け住宅 花鏡 ◆デイサービスセンター 花鏡
- ◆ヘルパーステーション 花鏡 ◆居宅介護支援事業所 花鏡

編集後記

今回は、フォレスト熊本設立20周年の特別号で企画しました。作成にあたり私たちもこれまでの過程を振り返る事が出来、懐かしく思い起こした次第です。

これまでの20年、介護保険を取り巻く環境は大きく変化しました。「変化に対応しているかどうか」これが地域の皆様を過不足なく支援する為に必要であると考えます。皆さまのお役にたてますよう努力してまいりますので、これからのフォレスト熊本にも御期待下さいませ。

リハビリテーション科
宮武 良美

